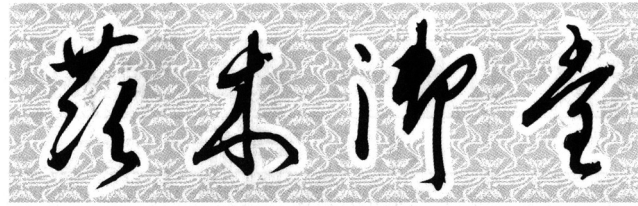


2025年3月発行

茨木御堂
第300号



真宗大谷派



茨木別院

(輪番 河原 恵)

〒567-0817 茨木市別院町3-31
TEL (072) 622-2903
FAX (072) 625-9445

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

みんなに原真いがかけてらるる

令和の大改修



天命に
安んじて
人事を尽くす

(『清澤満之の言葉』)

去る一月十四日、茨木別院では本堂の大改修に着手しました。二月十七日からは、本堂の足場および素屋根の建設がはじまりました。

茨木別院は、一六〇三年に本願寺第十二代教如上人が茨木城主から寄進された城内に創建したものです。その後、何らかの原因で倒壊した本堂は、一七七七年に再建され、再来年には、築二百五十年を迎えます。

この度の「令和の大改修」の総工費は、本堂と諸殿、内陣を合わせて五億九千万円になります。本堂は金剛組(大阪市天王寺区)が施工し、小屋組の補強や下がった軒周りを元の状態に戻すなどの工事をします。屋根瓦は空葺きにし、重量を軽くするほか、壁や床下の耐震補強もします。漆喰壁も塗り直します。二年後には白鳥が翼を広げたような綺麗な姿の茨木別院が蘇ると思います。

内陣については、京仏具小堀(京都市下京区)が修復してくれます。老舗の業者であり、阿弥陀様の宮殿や親鸞聖人と教如上人の御厨子も綺麗になります。

当初の計画では、本堂を曳家して北西の隅に動かす、認定こども園を移転して小規模園にすることも議論されました。しかし、本山や大阪教務所、市役所の指導および院議会の適切な判断で、今の場所でも本堂、諸殿を改修することになりました。また、八十二年の歴史を持つこども園も保護者の声を踏まえ、そのまま残すことができました。

清澤満之の言葉に「天命に安んじて人事を尽くす」があります。如来の勅命にしたがって、与えられた仕事に、周りの人々と一緒に力をつくしていくという教えです。私自身も、今回の大改修に携わること、この言葉の真実をいただいたように思います。これが浄土真宗に出遇った私たちの生き方だと改めて思いました。

南無阿弥陀仏 輪番 河原 恵

茨木別院関連ホームページ

真宗教団連合ホームページ

茨木別院 ➔ ibarakibetsuin.or.jp

<http://www.shin.gr.jp/>

いばらき大谷学園 ➔ ibarakibetsuin.or.jp/kids/

真宗教団連合

検索

茨木別院 月行事ご案内

● 教如上人ご命日・五日講(同朋会)

・日時 五日(水) 午後一時半より

・講師 加藤恵師
・会場 別院会館

● 本山九日講

・日時 九日(日) 午後二時より

・講師 茨木別院輪番
・会場 遍照寺

三月

● 春季彼岸会 ―お勤めと法話―

・日時 二十日(木)

午後一時半より午後三時頃まで

・講師 茨木別院輪番
・会場 別院会館

● 親鸞聖人ご命日・二十八日講

・日時 二十八日(金) 午後一時半より

・講師 茨木別院輪番
・会場 別院会館

● 教如上人ご命日・五日講(同朋会)

・日時 五日(土) 午後一時半より

・講師 加藤恵師
・会場 別院会館

● 本山九日講

・日時 九日(水) 午後二時より

・講師 茨木別院輪番
・会場 碧流寺

● 親鸞聖人ご命日・二十八日講

・日時 二十八日(月) 午後一時半より

・講師 茨木別院輪番
・会場 別院会館

四月

● 茨木別院本堂諸殿改修工事

二月より本堂の修復工事が始まっております。工事期間中は、各法要やお募参りの際ご不便お掛けすることになります。ご理解ご協力の程よろしくお願い致します。工事計画として約二年間を予定しております。また、工事期間中に屋根に上り本堂の屋根を間近で見てもらえるように見学会も検討しております。詳細が決まり次第お知らせさせていただきます。詳細がその際には、貴重な機会になると思いますのでたくさんの方のご参加をお待ちしております。また工事計画について大まかな予定をお知らせさせていただきます。

令和七年 二月十七日

本堂 修復工事開始
素屋根足場組

五月 初旬頃

本堂屋根修復工事開始

十一月中旬頃

本堂屋根見学会予定

令和八年 十一月中旬頃

本堂修復完了

本堂 修復工事完了後より

諸殿(事務所・御殿・書院) 改修工事開始予定



園の子どもたちへ

こんにちは、いばらき大谷学園です。
 一月初旬のことになります。園ではインフルエンザが大流行しました。子どもたちも職員も次々かかるとい
 う今年のインフルエンザの猛威に驚きを隠せませんでした。保護者の皆様には急なお休みのご協力をお願いした
 にもかかわらず都合をつけていただいたこと、改めてお
 礼申し上げます。

☆動物村・寒い中でしたが、たくさん動物が遊びに来てくれました。乳児組は自分よりはるかに大きいポニーなどに目が点になったり、泣き出したりと様々な反応が見られました。幼児になるにつれて抱っこしたり頭になわとりを乗せたりとこにこしながら触れ合う様子が見られました。

☆豆まき…かわいらしい鬼を制作して身に付け、いざ鬼退治！鬼役の先生に「きゃー！おにはそと！」と豆を投げてやっつけていました。自分の中の鬼もやっつけられたでしょうか？

☆おゆうぎ会…今年度最後の大きな行事は本堂の工事もあり、プレイルームで行いました。絵本などの題材を読み込んで、この役したいな、こんなことできたらもとおもしろいのは！など各クラスで試行錯誤しながら作り上げていきました。子どもたちのがんばる姿はとて
 もかっこよかったですね。

今年度も残り一か月。年長組はいよいよ卒園です。東本願寺の参拝も終えて、大きくなった子ども達は小学生になってどのような活躍をしてくれるのか、楽しみでなりません。

主任教諭 福井典子

挨拶は先手必勝

保育教諭 南部 早苗

「おはよう」「ありがとう」等の挨拶は元気づけられます。挨拶には不思議な力があると思います。挨拶は相手との会話、コミュニケーションのきっかけになります。そこから話題が広がり、相手を認め、自分の心を開きます。そして、社会の基本的なルールでもあります。挨拶をすると、相手から返礼されることで自分が認められたと感じることができ、これは自己肯定感を高めることに繋がります。また、自分から挨拶をする習慣がつけば、子どもは積極性や主体性を育むことにも繋がると思います。

二月に節分で鬼退治をしました。
 鬼といっても自分の心の中にある悪い鬼はどんな鬼か、子ども達と考えてみました。子ども達からは色々な意見がでてきました。ケンカしてしまう鬼、怒りんぼ鬼などができて、「挨拶できない鬼はいないか」とたずねてみました。すると、うーん・とうなずく子ども達。そこで挨拶できない鬼を退治しようということになりました。挨拶って気持ちいい、挨拶って笑顔になれる、そんなことを話し、挨拶の大切さを伝えました。私たち大人から挨拶をすることで自然と挨拶できるようになればと思います。時に挨拶はタイミングを逃すときなくなってしまう。
 『挨拶は先手必勝』この言葉は私の母から教わった言葉です。

ふとこの言葉を思い出し、自分も振り返り意識させられました。挨拶は笑顔になれる魔法の言葉。
 そんな魔法の言葉が増え、笑顔が増え、友だちの輪が広がってほしいと思います。

茨木別院報恩講十一月十五日 日中法話

「親鸞聖人の法然観」

講師：山田恵文師

(三重教区三重組安正寺住職)



今回法話を担当させていただきます。ただきます、山田と申します。三重県の四日市に自坊がありまして住職を務めさせていただけます。実は私、ここ茨木市に住んで

いた時期があります。一九九四年からの四年間です。その時は大谷大学の院生でありまして、並木町の方に親戚が所有する空き家があり、そこを借りて大学まで通っていました。阪神淡路大震災もここで経験しました。茨木市も大きく揺れて、たくさんの方が被害が出たと記憶しております。私の住んでいた家も大きな被害が出て大変苦労しました。そのような体験もあり、ここは私にとって大変思い出深い町です。約三〇年ぶりということになるでしょうか。町もだいぶ変わったと思

いますが、今日は後ほど散策しようと思っております。

さて、今日は報恩講ですが、報恩講は親鸞聖人の法事と言えます。毎年毎年、親鸞聖人のご命日がやってきます。十一月二十八日が御命日になりますけれども、そのご命日に合わせて行う親鸞聖人の法事と思っております。ただければいいと思います。この報恩講におきまして、親鸞聖人が私たちに一体何を教えてくださっているのかということを確認すること、これが報恩講の意義だと私は思っております。親鸞聖人が私たちに一体どういうことを教えてくれているのかということ、毎年毎年確かめることが大切なことであると思っております。

今日は『歎異抄』という書物の第二条を通して、親鸞聖人のお話をしたいと思います。

親鸞聖人の先生はご存じですね。法然上人です。親鸞聖人にとって大切なかけがえのない人です。この法然上人のことを親鸞聖人はどういう存在として見ておられたのか。今回、「親鸞聖人の法然観」というテーマを挙げましたけれども、親鸞聖人は法然上人をどんな方としていたのかということをお話したいと思います。その題材として『歎異抄』第二条を取り上げます。

『歎異抄』という書物には、親鸞聖人がお話しされたことばが記録されています。「おのおの十余ヶ国のさかいをこえて、身命をかえりみずして、たずねきたらしめたまう御こころざし、ひとえに往生極楽のみちをといきかんがためなり」(『歎異抄』第二条)。こういうふうに関東聖人は喋っているわけです。目の前に何人かの人がいるわけです。その人々に向かって話しているわけですが、何をおっしゃっているのかというと、あなたの方が十以上の国の境を越えて命を顧みないで私をお訪ねになったのは、ひとえに往生極楽の道を探るためでしょう、と。あなたたちは、私に浄土に生まれる方法を聞くためにやってきたのですよ、ねというふうに言っているわけです。これは、目の前に関東からやってこられた門弟たちがいるわけです。

親鸞聖人は各地を旅した仏教者ですけれども、四十二歳から六十三歳頃までは、今の茨城県のあたりに住んでおられました。だいたい二〇年間、関東に住んでおられた時期がありました。そこで念仏の教えをみんなに伝えました、その結果たくさんのお弟子さんが誕生します。私たちはそれを門弟と呼びます。関東で二〇年ほど教化活動をする事によって数千人規模の門弟が誕生したといわれています。親鸞聖人は六十三歳

の頃に京都に戻られます。そして九〇歳でお亡くなりになります。その間に関東からはる



ばる旅をして来られた方がいるわけです。親鸞聖人に面会して念仏の教えを学ぶわけです。この場面も同じく関東からはるばる来られた方々がいて、その人々に向かって「あなたの方が十以上の国の境を越えて、命がけで私のもとにやって来たのは往生極楽の道を探るためでしょう」と言われているのです。往生極楽の道というのは、浄土に生まれる手立てということなんです。これを私に聞くためでしょうというふうに言っているわけです。

実際に関東の門弟たちは親鸞の教えを聞きたくてやって来ているわけですが、実はこの場面では、具体的に深刻な問題があつてやって来ているのです。一つは親鸞聖人の息子に善鸞という方がいました。善鸞が関東の門弟たちを混乱させてしまったということが背景にあります。関東の念仏者たちを導いてほしいという思いをもって、親鸞聖人は息子の善鸞を京都から関東に派遣したのですが、最終的に善鸞は嘘をついてしまいました。それが秘事法門、秘密の教えとい

まして、「私はお父さんから秘密の教えを授かっている。あなた方は念仏しか知らないだろうけど、浄土に生まれるための特別な方法を授かっている」という内容のことを言ってしまう。もちろん親鸞聖人はそのようなことは教えていません。それを聞いた関東の門弟たちは混乱するわけです。親鸞聖人から念仏だけではないと言われていたのに、それ以外に何かすごい教えがあるのかと動揺してしまっただけです。そして、親鸞聖人に向かって念仏だけでいいのですかと尋ねに来ている場面になります。

もう一つは、日蓮上人という鎌倉時代の有名な仏教者がいます。日蓮上人がちょうど親鸞聖人の晩年の頃に活動を始められまして関東地方で念仏の教えを批判し始めるわけです。日蓮は色んな宗派の教えを批判していくわけですが、特に念仏を批判し、念仏したら地獄に落ちると言うのです。念仏したら浄土に生まれるのではなく、念仏は無間地獄、地獄の中でも一番苦しい地獄に落ちる行為であると日蓮上人は批判し始めました。それを聞いた関東の門弟たちはびっくりするわけです。念仏したら浄土に生まれると聞いていたのに別のお坊さんは念仏したら地獄に落ちると言っている、これは

一体どういうことかと不安になってはるばるやって来られるわけです。このような背景が具体的にあると踏まえて、この文章を読むと、だから親鸞聖人はこんなことを話しているのだということがよく見えてきます。

しかるに念仏よりほかに往生のみちをも存知し、また法文等をもしりたるらんと、こころにくくおぼしめしておわしましてはんべらんは、おおきなるあやまりなり。もししからば、南都北嶺にも、ゆゆしき学生たちおおく座せられてせうろうなれば、かのひとにもあいたてまつりて、往生の要よくよくきかるべきなり

『歎異抄』第二条

これは善鸞事件を背景にしている文章であることがよく分かります。念仏以外に往生の方法を知っている、また教えなども知っているであろうと気にかけておられるならばそれは大きな誤りです。もしそうであるならば、奈良のお寺や比叡山延暦寺に立派なお坊さんたちがたくさんおられるから、その人々にお会いになって往生の要をよくよく聞くのがよいでしょう、と。つまり、念仏以外の教えをあなた方が求めているのであ

れば、他に立派なお坊さんたちがおられるからその方々にお会いになったらいいんですよと言われるのは、親鸞聖人は念仏しかないと言っているわけです。このように、往生の道が他に何かあるのではないかと怪しんでいるのは善鸞事件が背景にあります。

話が逸れますが、先に「身命をかえりみず」とありました。命がけでという意味ですが、はるばる歩いてこられたということで危険なこともあったであろうことから、命がけであなたたちはやって来たのですよねと言っているわけです。そして、命を顧みないで私に尋ねようとしていることは、往生極楽の道、浄土に生まれる手立てですよねと親鸞聖人は確かめています。つまり、命をかけてまであなた方が求めているのはこれでしょうと言っているわけです。

命がけで求めるものとは私たちにあるのでしょうか。これが分かたら命を捨ててもいいというものです。例えば仮に私が見なさんに今からお金儲けの方法を教えてあげます。この先お金に困ることはもうありません、と言われたら知りたいですか。もしくは、もう病院に行かなくてもいい、今から私の言うことを実践したら絶対に病気にかからないし、けがをすることもな

い、と言われたら知りたいですか。もしそれが本当なら、知りたいのではないですか。ただそれを、命をかけてまで知りたいかという問題です。命がけでそのことを知りたいかどうか。つまり、命と引き換えにまで知りたいことなのかどうかという問いかけです。いくらお金儲けの方法を知っても、いくら健康で長生きの方法を知っても、命と引き換えたら意味がありませんよね。

では、私たちの人生において、命をかけてまで知りたいこととは一体どういうことがあるのでしょうか。親鸞聖人は、それは往生極楽の道だという見解を持っています。これが一体どういうことなのかということ、私たちが人生の課題を考える上で非常に大事なところかと思えます。命をかけてまで知りたいことは往生極楽の道である。それしかないということは、それさえ分かれば安心して死んでいけるし、安心して生きていけるということでしょうね。これさえ分かたらもう死さえも恐れなくなる、安心して私たちは死んでいける。そうなれば命と引き換えてもいいということになるでしょう。この一文は非常に重要な問いを私たちに投げかけています。

(次号に続く)

茨木別院本堂諸殿改修工事に伴う

境内地の駐車利用について

二月より本堂修復工事が始まりそのため境内地に足場が組まれております。そのためお墓参りや法要に参詣いただく際の駐車利用を工事期間に限り禁止させていただきます。

みなさまにはご不便をお掛けすることにはなりますが、茨木別院に来院される時は周辺のパーキング等をご利用いただけますようお願い申し上げます。また、本堂の利用が出来ない為、須弥壇納骨の受付を一時停止しております。墓地、合祀納骨の利用に関しては引き続き受け付けておりますので、ご不明な点がありましたら茨木別院事務所までお問い合わせください。

●茨木別院事務所

☎072162212903

正誤表

前号掲載の年回表に左記の通り誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

「誤」・七回忌 平成元年亡

「正」・七回忌 令和元年亡

敬 弔

ご生前のご遺徳を偲び、
謹んで哀悼の意を表します。(敬称略)

記

●法名 釋永晴
俗名 内田晴之 八十九歳

●法名 釋英秀
俗名 西江秀三 七十六歳

●法名 釋尼良法
俗名 山田良子 九十六歳

●法名 釋願海
俗名 中谷洋一 七〇歳

●法名 釋紹隆
俗名 浦辻隆一 九〇歳

●法名 慈光院釋尼妙廣
俗名 矢野廣子 一〇二歳

●法名 志願院釋尼喜愛
俗名 菅喜志子 九十六歳

編集後記

三月には、お彼岸のお勤めがあります。本堂修復により、会館の仏間でお勤めをします。会館でのお勤めとなりますので、内勤めという形にはなりますが例年通り各法要のお勤めは開催する予定となります。ご門徒の皆様のお参りお待ちしております。また、お参りいただいた際には別院の工事の様子もご確認いただければと思います。

竹内明人

株式会社花 廣

— 生花・供花・けいこ花 —

茨木市大手町二二一八

☎(〇七二)六二二一四〇二